

文学館だより

平成31年 2月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文 貴 日 高

枯草の匂いよいよかぐはしききさらぎの野となりけるかな

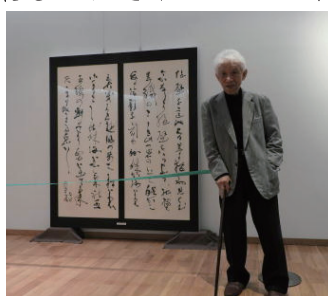
大正13年詠 「黒松」収録

えのくらこうそん

榎倉香邨先生(95歳)、1月15日 ご来館

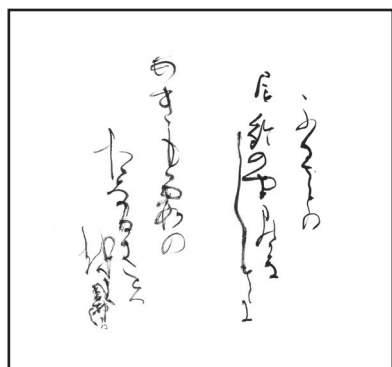
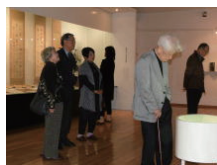
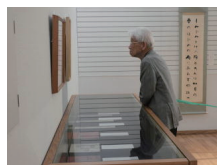
昨年来の牧水没後90年記念事業は、榎倉香邨先生の個展『榎倉香邨の書 ふるさと』で今年の幕が開きました。榎倉先生は、約20年前、伊藤一彦館長の講演を聞いて以来、牧水のうたを作品にしてこられたといひます。今回は54点に及ぶ新旧織り交ぜた作品が県立美術館に並びました。

個展開催中、県立美術館が休館であった1月15日(火)、若山牧水記念文学館や生家にお立ち寄りいただきました。約10年ぶりの坪谷来訪とあって、榎倉先生ご自身も随分楽しみにされていたご様子でした。



ご自身の書をバックに一枚

個展に合わせ、文学館においても、榎倉先生の書をはじめとして牧水、喜志子夫人の遺墨を展示しました。企画室、常設展示室とも熱心に見入っておられる榎倉先生の姿が今でも目に焼きついています。



ご来館を記念して、一枚、書していただきました。

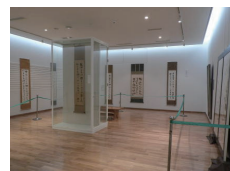
「ふるさとの尾鈴の山のかなしさよ

秋もかすみのたなびきて居り」

榎倉先生の個展に合わせて開催した今年初の企画展

『牧水の書 収蔵コレクション展』も、こうして幕を閉じました。

1月5日(土)～20日(日)



牧水母校作品展開催のごあんない

- 【期 間】 2月10日(日)～3月31日(日)
【場 所】 若山牧水記念文学館ギャラリー ※無料
【内 容】 ①坪谷小学校児童が詠んだ短歌作品
②延岡高等学校生徒が詠んだ短歌作品
③早稲田大学短歌会が詠んだ短歌作品
④旧制延岡中学校時代から早稲田大学時代に詠んだ牧水短歌

今回で3回目を数える牧水母校作品展。明治時代に詠まれた牧水短歌はもちろんのこと、今も詠み継がれている現代短歌を存分にお楽しみいただけたと思います。

予 告 『みなと』作品展(仮称) 開催予定

牧水・短歌甲子園卒業生グループ『みなと』の作品展を、当文学館で開催予定です。高校で短歌と出会い、今もそれぞれの地で詠み続けている短歌がここ文学館に集まります。牧水先生に続けとばかり、歌人のたまごたちにも注目です。乞うご期待。

高森文夫を偲ぶ詩大会表彰式が行われました

高森文夫生誕の日、1月20日(日)、高森文夫詩碑除幕式が道の駅とうごうで行われました。それを前に第6回高森文夫を偲ぶ詩大会表彰式がここ文学館で行われました。みごと一席に輝いたのは財光寺小学校5年生 田中秀弥さんでした。

赤ちゃんが産まれる前のお母さんの様子、赤ちゃんが産まれるしゅん間の場面、赤ちゃんのなき声、作者のはずんだ心情、お父さんの拍手。生命の誕生の場面、わき立つ感情を見事に言葉にしました。表現せずにはおられない「心の叫び」があるのです。「お母さんはやっぱりすごい」と生命を生み出すお母さんにも拍手を送っています。
(選評 二見順雄氏)

ぼくの初めての妹
お母さんが朝からいたいと言っていた
病院でずっとこしをゆすっていた。
部屋で前の人が苦しんでいた。
ぼくは心配した。
産まれるしゅんかん ぼくは見た。
頭が出たらかたが出た。
九時十分におぎやう。
やったあ産まれた。
すごくかわいかった。
となりのお父さん、はく手した。
新しい命のたん生だ
ぼくもこうやって
産まれてきたのかな
お母さんはやっぱり
すごい



ぼくの妹

財光寺小五年 田中 秀弥

この事業は日向市内の小学4年生から6年生を対象に毎年行われています。今年は9校 254編の作品が寄せられました。ありがとうございました。

えのもとむらこ

榎本篁子さん、新美麻里さんご夫妻 ご来館



県立美術館で開催された榎倉香邨先生の個展『榎倉香邨の書ふるさと』(先述) ご観覧のため、来県された牧水の孫、榎本篁子さんとその娘さん新美麻里さんご夫妻が、1月14日(月)、坪谷にお越しくださいました。

文学館では、「お帰りなさい。」といつも篁子さんをお迎えしているのですが、篁子さんは何気ないそのひとことに感激され、うれしさをにじませていらっしゃいました。他を思いやるお心遣い、優しいお声かけは毎回変わることはありません。牧水先生も(こんな感じで)きっと穏やかだったんだろうなあ、とか、ご親族に語り継がれ、牧水先生もお幸せだろうなあ、などと勝手に想像を膨らませ、私も幸せなひとときを共有させていただきました。



きらくや しょうた

出逢い 長野県小諸市 喜楽屋 笑太さん 1月23日来館



小諸で人力車引いていて、ここを避けては通れないって来たのが若山牧水の出生地。正直日向市出身だとは初耳。しかも小諸へ来たのは病氣療養の為に聞いてたけど、実は失恋の傷心旅行だったとか「懷古園」の歌碑は全国で2番目に出来たとか…驚きの新事実も!!牧水が益々僕好き!!(1月23日 ツイッター)

鹿児島から北上中という俤夫 喜楽屋笑太さんがご来館。牧水は小諸に滞在していたという縁もあり、お立ち寄りくださった。新発見もあったようで熱心に見学してくださった。[絶景 de 人力車]と銘打ち、今日もたくさんの方と出逢っていることだろう。出逢いに感謝。

牧水と小諸 恋愛に苦しみ、心身ともに疲労困憊した牧水は、山梨の友人飯田蛇笏を訪ねて10日ほど滞在。その後長野県小諸で友人岩崎慥郎が勤める田村病院の2階の一室に落ち着き、2ヶ月ほど病氣治療にあたる。明治43年9月のことであった。



小諸懷古園内の歌碑



田村病院内の歌碑